

自然と文化、人がかがやく平林

## 平林地域まちづくり新聞

Vol. 15  
2018年  
2月1日号

## 住民アンケート調査の集計結果と分析がまとまりました。

報告会での意見交換の様子



平成29年7月から8月にかけて実施した住民アンケート調査の集計結果と分析がまとまり、平成29年11月22日(水)、平林ふれあいセンターを会場に、報告会を開催しました。報告会では、まちづくりの協議会の代議員や運営委員を対象に、都岐沙羅パートナーズセンターの事務局長斎藤王税さんから、アンケートの分析結果を報告いただいたのち、出席者同士で意見交換を行いました。アンケート結果の概要とポイントは下記のとおりです。

## アンケート結果から見えるポイント①

アンケート結果	ポイント
---------	------

## アンケートの実施と回収率

中学生以上の全住民と対象にアンケートを実施。  
回収率は74.1%! (配布 1,685、回収 1,249)

かなりの高回収率! 住民の意向がしっかりと反映されているデータといえる。

## 回答者属性

回答者の半数近くは60代以上。  
農業従事者の80.0%が60代以上。

世代別に意見をまとめないと若い世代の声が埋没する。  
将来的に農地の維持管理が心配される。

## 日常的な交通手段



80代になると車を運転する人の割合が減少する。  
(70代→80代: 男性▲32.9%、女性▲49.7%)

日常生活での移動が困難になる人が確実に増加する!  
移動支援を今から考えていく必要があるのでは?

## インターネットの利用割合

全体の半数以上(52.6%)がインターネットを利用。  
(50代以下は約8割、30代以下は約9割)  
(大半がスマートフォン、携帯電話で利用)



50代以下はインターネット経由での情報伝達が効果的?!  
(閲覧板は若い世代の人が見ないうちに回ってしまっていることがある?)

## 地域活動への関心

※地域活動: 地域や集落の活動や共同作業、まちづくり協議会等の活動、地域の祭り・行事・イベントなど

全体では「関心はあるが参加していない」の回答がトップ。(27.0%) その理由の大半は、「余裕がない」。

必ずしも「地域活動に参加していない＝関心がない」というわけではない。多様な関わり方を検討したり、直接対話したりすることが必要。

「関心はないが、付き合いで参加」の理由は、「頼まれた」が第2位。(29.7%)

一人ひとりをお願いすることで参加につながる可能性がある。

20代男女、30代男性は、「関心はなく、参加したいとも思わない」の回答割合が多世代に比べて極端に高い!

現状は30~70代の方々の頑張りでも地域活動が回っている。将来に向け、次の世代の人たちの声に真摯に耳を傾ける必要があるのでは?

## アンケート結果から見えるポイント②

アンケート結果	ポイント										
<p><b>女性・若者の声を反映する必要性</b></p> <p>地域全体では半数以上が「必要」と考えている。60代男性（役員世代）は7割超、30代以上は半数以上が「必要」と回答。</p>	<p>お互いにその気はある！声を反映させる場や機会、仕組みについて充足させる必要がある。</p> 										
<p><b>移住・定住者の受け入れの必要性</b></p> <p>「必要」と考えている割合は約4割。特に30代、40代が高い。</p>	<p>必要性は薄々感じているが、まだ今ひとつ実感がない。今後を考えて話し合いを徐々に進める段階。</p>										
<p><b>他地域との交流の必要性</b></p> <p>地域全体では1/3以上が「わからない」と回答。「必要」という考えもほぼ同じ割合。</p>	<p>必要性は薄々感じているが、まだ今ひとつ実感がない。今後を考えて話し合いを徐々に進める段階。</p>										
<p><b>この地域に住み続けたいと思うか？</b></p> <p>全体では約6割の方が「住み続けたい」と思っている。（かなり高水準！）ただし、10代、20代は「住み続けたいとは思わない」の割合が比較的高い。</p>	<p>若い世代は「わからない」と回答した割合が多い。幼少の頃から愛郷の心を育む取り組みを！地域への愛着→定住へ。</p>										
<p><b>自分の子どもにも住み続けてほしいと思うか？</b></p> <p>地域全体では「住み続けてほしい」が4割強。子育て中の親世代（特に30代、50代女性）の「住み続けてほしい」の割合が地域平均より低い。（約3割）</p>	<p>親世代の考えが、子に影響する可能性があるので注意が必要！（将来的な人口流出の引き金になるかもしれない…）</p>										
<p><b>地域への愛着</b></p> <p>「愛着がある」と答えた人は60.3%で、決して低い数値ではない！世代間の差もあまり大きくなく、どの世代もこの地域に愛着があることがうかがえる。</p>	<p>世代間のギャップが少ないのはいい兆候で、今後も地域全体で郷土愛を育てていくことが大切。</p> 										
<p><b>誇りに思う地域資源は？（複数回答）</b></p> <p>全体でのトップ5は</p> <table border="1" data-bbox="119 1630 794 1821"> <tr> <td>① 景観・自然環境</td> <td>45.6%</td> </tr> <tr> <td>② 諸行事（祭り、イベント等）</td> <td>27.1%</td> </tr> <tr> <td>③ 暮らす人々</td> <td>23.5%</td> </tr> <tr> <td>④ 名所・旧跡</td> <td>21.5%</td> </tr> <tr> <td>⑤ 助け合いなどの社会関係</td> <td>19.5%</td> </tr> </table>	① 景観・自然環境	45.6%	② 諸行事（祭り、イベント等）	27.1%	③ 暮らす人々	23.5%	④ 名所・旧跡	21.5%	⑤ 助け合いなどの社会関係	19.5%	<p>これまで地域で大切にされてきた自然環境や人と人との関係、伝統行事を始めとした地域・集落の諸行事が、誇りや愛着につながっていると言える。</p> <p>一方で若い世代では「無い」と答える割合も高く、世代間の意識の違いにも目を向ける必要があるのでは？</p>
① 景観・自然環境	45.6%										
② 諸行事（祭り、イベント等）	27.1%										
③ 暮らす人々	23.5%										
④ 名所・旧跡	21.5%										
⑤ 助け合いなどの社会関係	19.5%										
<p><b>近所づきあいでの悩みは？（複数回答）</b></p> <p>全体の約6割が「悩みなし」と回答しているが、年代別に見ると30～60代では「忙しすぎる」、80代では「仲間がほしい」という悩みが全体平均より高い。</p>	<p>人は減っているが、役割・仕事量が変わらなければ負担感が増す。今後想定される人口減少に備え、地域・集落の運営の方法や組織の体制について検討を始める必要がある。</p>										

## アンケート結果から見えるポイント③

アンケート結果	ポイント
---------	------

### 暮らしの中での困りごと(複数回答)

全体でのトップ5は		
① 玄関先の雪のけなどの冬季の除雪 21.0%		70代でトップ。(20代以上はどの世代でも2位もしくは3位) ほぼすべての世代で上位にランクイン。
② 健康面への不安がある 18.8%		60代以降になると上位にランクイン。 自らの健康について不安視している人が多い。
③ 災害への備えや避難 16.6%		ほぼすべての世代で上位にランクインし、地域共通の困りごと(心配ごと)と言える。地域全体で防災意識や防災力の向上が求められる。
④ 農地や山林の維持管理 13.6%		40代以降で上位にランクイン。(50代は第1位) 30代以下の関心は低い。
⑤ 仕事・雇用に関すること 13.3%		働く世代で上位にランクイン。 (20~50代で1位もしくは2位)

#### 【まとめ、注意点など】

- ・世代別の困りごとにも分析して丁寧に注目することが重要。(少数派である若い人の意見が埋もれやすいので注意！)
- ・「医療体制に不便を感じる(全体6位)」は、30~70代で上位。子育て、親の介護という面で困りごとになっている!?
- ・「仲間と気軽に集まる場所がない(全体8位)」は、10~20代で上位にランクイン。(10代では第2位)
- ・「買い物・通院などの移動手段(全体7位)」は、80代のみ上位にランクイン。(80代の第3位)

### 取り組みの満足度と重要度の評価

これから重点的に取り組むべきテーマのトップ5は		
① 婚活イベント、紹介など、結婚対策		50代以上は圧倒的に将来に向けてこれが大切だという評価。
② 状況把握・持ち主との交渉など、空き家の管理活動		30~60代はこの必要性を強く感じている。 人口減少・流出の影響か?!
② 見回りなど、防犯・交通安全活動		30~40代は特にこれを求めている。
③ 子育てなどの相談ができる場や人について		30~40代は特にこれを求める傾向が強い。
④ 買い物・通院など、移動支援活動		30~40代はこの必要性を強く感じている。自分の親や祖父母世代への移動支援を求めている。

#### 【年代別集計による特記事項(その世代で重要だと思っているもの)】

- (30~60代) ・避難訓練・連絡体制など、防災活動 ・見守り、配食サービスなど、生活支援活動、 ・登下校の見守りなど、子どもの安全を支える活動 ・保護者同士が交流できる場 ・住民との交流や空き家紹介など、定住受け入れ活動
- (50代以上) ・農地・山林などの維持管理
- (すべての世代) ・草刈り・河川清掃など、道路・河川の維持管理 ・日常的な不安や悩みが相談できる場や人

### 全体まとめ

- 将来に向けた対策を講じる前に、まずは冷静に地域の現状を理解することが重要。  
(思い込みだけでいろいろな取り組みを進めると、現状とのズレから空振りに終わる可能性があるので注意！)
- 少子高齢化や人口減少など大きな社会情勢の変化。これからの地域づくりは、今までの延長ではなく時代に即した進化が必要！
- 若者・中堅世代(これからの地域の担い手)は少数派。丁寧に意見を聴かないと(分析しないと)、多数派(中高齢者層)に埋没してしまう。

## 自由記入のご意見・ご提案など(抜粋)

- ・村上市内の全体的な雰囲気として、どことなく閉鎖的な感覚を抱いてしまう。(中略) 他を受け入れる寛容さや柔らかな気持ちや雰囲気がもっとあると、さらに素晴らしい村上市になると感じます。私は、静かでのどか、自然が豊かな村上市が大好きです。(20代、男性)
- ・地域の住民が住みやすい環境を維持していくには、防災、防犯、インフラの整備、人付き合い、負担の少ない地域活動など、住民同士知恵を出し合っていかなければならない。(60代、男性)
- ・高齢者が多くなり、入所出来ず居宅で介護を受けている人、介護している人が、まだまだ多く大変だとの声が多く聞こえます。支援事業所をお願いしたい。なるべく高額で無く、負担額をおさえて出来ないものか。居宅介護にも何か考えてほしい。(70代、女性)
- ・公民館を夏、冬休みや土日祝日に開放して、勉強できるようにして下さい。上級生にとっても下級生にとっても教え合うことが小学生のうちからできて良い経験になると思います。(10代、女性)
- ・自分の地域は、近所付き合いはそれなりに良く、近所同士は良いと思いますが、イベントがあまりなく、あっても地域の人あまり参加していない事が大変だなと思いました。(10代、男性)
- ・地域のお年寄りが、ほぼ毎日のように集まり一日過ごせる場所が各集落にあればいいと思います。市で立ち上げ、徐々に集落の皆さんが協力し合い運営できるような地域づくりができれば元気なお年寄り、世話好きなおかあさん、お年寄りをいたわる子供達が助け合いながら生活できるのではないのでしょうか。ふれあいセンターを毎日オープンにしてお年寄りを中心にだれでも立ち寄る事のできる「茶の間」ができればいいと思います。(50代、女性)
- ・祭や七夕など昔から続いている行事はこれからも続けて行ってほしい。とても楽しく参加させてもらっている。お楽しみ会などの会も毎年楽しみにしている。(10代、女性)

## アンケート報告会での意見(抜粋)

アンケート報告を聞いてのご意見、ご感想	今後地域でどのような取り組みが必要？
<ul style="list-style-type: none"> <li>・年代別の意見が確認できて、大変参考になり、課題解決に役立てたい。</li> <li>・アンケートの各項目について、目に見えて問題が浮き彫りになったと思う。この問題を地域でどのように取り組んで行くかが重要であり、このデータを材料に事業を進めていきたい。</li> <li>・地域活動への関心について、関心はあるが参加していないという人がけっこういるので、役員から声をかけた方が良かったと思った。</li> <li>・もう少し10代・20代からの意見を言える場を設けた方が良かったと思った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この分析をふまえ、集落全体で検討していきたい。</li> <li>・この7集落で、もっと話し合いの機会を作った方が良い。</li> <li>・地道に小さい事を重ねていくしかないのかなあ。</li> <li>・子育て世代としては、仕事や学校行事・地域行事などしなければいけないことが多く、とても忙しく思います。人口が減っているのに、やることが同じでは、負担が大きいです。何か魅力がないと、今後も減っていくばかりだと思います。</li> </ul>

### ご意見・ご感想・問い合わせは

- 神林支所地域振興課自治振興室
- 電話・告知端末 66-6122
- メール  
k.shinko-chiiki@city.murakami.lg.jp
- ホームページ URL  
http://www.city.murakami.lg.jp/



※アンケート結果の詳細は、  
村上市のホームページで  
ご覧いただくことができます。  
「平林地域まちづくり協議  
会」で検索してください。

「ご意見をお寄せください」  
当協議会では、来年度から  
始まる第3期まちづくり計  
画(3力年)を検討していま  
す。このアンケート結果など  
をふまえ、各集落で話し合い  
を進めていただき、これから  
の地域づくりにつなげてい  
きたいと思っておりますので、よろ  
しくお願いいたします。